



令和 3 年度

かながわの地域日本語教育の 取組状況について

神奈川県国際文化観光局国際課

令和 4 年 2 月 22 日

取組の概要

「かながわの地域日本語教育の施策の方向性」の4つの方向性に沿って、地域日本語教育の体制づくりに向けた取組を進めている。

基本理念

日本語による円滑なコミュニケーションを通じて、外国籍県民等が安心して生活し活躍できる、多様な文化を尊重した活力ある地域社会を実現する

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

- ◆総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置
- ◆市町村等連絡調整会議
- ◆総合調整会議等
- ◆日本語教育に対する実態把握・ニーズ調査
- ◆市町村への財政的支援(補助金)
- ◆専門家による日本語講座開催の促進(初心者向け日本語講座、運営改善支援)

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

- ◆日本語ボランティアの養成・研修
- ◆日本語学習支援に関する研修の実施

③ 地域日本語教育に関する情報提供の充実と外国籍県民等の日本語学習へのアクセス促進

- ◆日本語学習支援に係る相談対応・情報提供

④ 多文化理解の推進

- ◆地域日本語教育に関するフォーラムの実施

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

総括コーディネーター及び地域日本語教育コーディネーターの配置

概要

総括コーディネーター 1名
地域日本語教育コーディネーター 4名
(政令市・県西地域1名、横須賀三浦地域1名、県央地域1名、湘南地域1名)

※(公財)かながわ国際交流財団

取組実績

- ・ 市町村に対する情報提供
- ・ 市町村補助金を活用した事業への働きかけ
- ・ 市町村等からのニーズの把握
- ・ 複数市町村、関係機関との連携(ネットワークづくり)支援
- ・ ボランティア研修への相談対応、講師紹介
- ・ ボランティア希望者へ日本語教室を紹介

課題

- ・ 地域日本語教育の課題について市町村の理解は進んだが、具体的な取組・事業化につなげることが難しい。

今後の検討事項

- ・ 個々の市町村の状況に応じた取組と支援

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

市町村等連絡調整会議

概要

県内の市町村・国際交流協会等が地域の日本語教育について情報共有や意見交換を行うとともに、日本語教育の推進に資する研修を実施する。

取組実績

【第1回】 5/28(金) オンライン開催

- ・ 神奈川県地域日本語教育について
- ・ 各市町村の地域日本語教育について
(相模原市、秦野市、伊勢原市、綾瀬市の取組紹介)

【第2回】 10/20(水) オンライン開催

- ・ 神奈川県地域日本語教育に係る情報共有
(令和4年度の市町村支援策、市町村支援型モデル事業の実例)
- ・ 各市町村の地域日本語教育に係る情報共有
(ブレイクアウトルームでの意見交換)

【第3回】 2/21(月) オンライン開催

- ・ 神奈川県地域日本語教育に係る情報共有
- ・ 各市町村の地域日本語教育に係る情報共有
- ・ 研修(事例紹介、やさしい日本語ワーク)

課題

- ・ 市町村ごとに外国人数や日本語教育に関する取組状況等が異なるため、内容のレベル感を合わせる 것이難しい。

今後の検討事項

- ・ 効果的な意見交換や情報交換ができるような仕組みづくり
(グループ分け等)

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

総合調整会議等

概要

県内の地域日本語教育を推進していくため、専門家等から今後の施策に係る助言の聴取等を行う。

【**かながわ国際政策推進懇話会専門委員会(地域日本語教育)**】

8/31(火) オンライン開催

- ・ 令和3年度かながわの地域日本語教育の取組について
- ・ 令和4年度事業の方向性(案)について

1/18(火) オンライン開催

- ・ 令和3年度かながわの地域日本語教育の取組状況について
- ・ 令和4年度かながわの地域日本語教育の取組(案)について

【**総合調整会議(かながわ国際政策推進懇話会)**】

2/22(火) オンライン開催

- ・ かながわの地域日本語教育の取組状況 等

取組実績

今後の検討事項

- ・ 日本語教育の推進に関する法律において規定されている地方公共団の基本方針の策定については、既存の「かながわ国際施策推進指針」に組み込むことを想定しているため、指針改定の際に検討。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

日本語教育に対する実態把握・ニーズ調査(市町村支援)

概要

日本語教育に対する実態把握・ニーズ調査
(関係機関約10団体、合計20名以上のヒアリング等の調査)

取組実績

【海老名市】

- ・ 日本語教室や自治会等、計10団体、23名へのヒアリングを実施
- ・ 報告書(案)作成中

【伊勢原市】

- ・ 日本語教室や企業等へのヒアリング実施中
- ・ 報告書を2月までに取りまとめ予定

【愛川町】

- ・ 国際交流団体や文化・宗教施設等へのヒアリング実施中
- ・ 報告書を2月までに取りまとめ予定

課題

- ・ 把握したニーズを各地域の具体的な施策にどのように反映してもらうかの検討まではできていない。

今後の検討事項

- ・ 把握したニーズに応じた具体的な施策例

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

市町村への財政的支援(市町村補助金)

概要

神奈川県地域日本語教育の総合的な体制づくり市町村推進事業費補助金

補助率:国1/2、市町村1/2

国 庫:文化庁「文化芸術振興費補助金(地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業)」

取組実績

【申請自治体】 7自治体

- ・ 相模原市、横須賀市、茅ヶ崎市、秦野市、大和市、綾瀬市、湯河原町

【日本語教育人材に対する研修】

- ・ 既存ボランティア、ボランティアを目指す方を対象に、実践的な日本語の教え方を学習する講座を開催 等

【地域日本語教育の実施】

- ・ 日常生活に必要な基礎的な日本語を学ぶ日本語講座を開催
- ・ ボランティア教室に対し、活動に必要な経費の一部を助成 等

【その他】

- ・ 学習者のレベル等に応じた教材を提供

今後の予定

- ・ 各自治体から県に実績報告の提出(3月)
- ・ 額の確定後交付(4月頃)

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 1

日本語初心者向けの日本語講座の実施(県モデル事業)

概要

生活に必要な日本語の習得を目指して、将来的に市町村でも実施可能となるよう専門家による集中型の日本語講座を実施。

【横浜講座】(かながわ県民センター)

レベル1: 7/ 2 (金)～9/10(金) 計20回 12名修了

レベル2: 9/24 (金)～12/3(金) 計20回 10名修了

【県央講座】(海老名市、座間市、綾瀬市 共催)

レベル1: 8/23(月)～11/8(月) 計20回 15名修了

レベル2: 11/22(月)～2/14(月) 計20回 (集計中)

【オンライン講座】

レベル2: 11/10(水)～1/26(水) 計20回 19名修了



取組実績

※レベル1: はじめて日本語を勉強する人
レベル2: ひらがな、カタカナを読むことができる人

コロナの 影響

- ・ 緊急事態宣言を踏まえて、横浜及び県央講座の一部をオンラインに切り替えて実施した。
- ・ レベル1の学習者に対しては、オンラインによる指導が難しい面もあった。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 1

日本語初心者向けの日本語講座の実施(県モデル事業)【続き】

課題

- ・ 受講者の日本語レベルが様々であり、生活オリエンテーションの説明内容の理解が難しい場合がある(特にレベル1)。
- ・ 市町村は兼務等で多忙な職員も多く、生活オリエンテーションへの関わり方が難しい。
- ・ 感染状況に応じた対面開催の可否について、明確な判断基準がない。

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

横浜講座 レベル1:100%

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 子どもの学校で、先生が自分に話していることが少し分かるようになった。
- ・ 日本語の会話が上達した。日常生活で役に立つ言葉もたくさん学習した。そのことで、前より自信がついた。
- ・ オンラインに変わったことで、直接先生や友達と話すことができなくなった。

今後の検討事項

- ・ 生活オリエンテーションの実施回数や実施内容(再検討)
- ・ 対面開催の可否に係る判断基準の設置

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 2

ボランティアによる日本語教室等の運営改善等に係る支援(市町村支援)

概要

地域のボランティアによる日本語教室がこれまでの課題や問題点等を解決し、継続的かつ発展的な運営が可能となるよう、専門家の助言や指導による支援を実施。

【実施自治体】

平塚市

【概要】

テーマ:日本語学習支援者ボランティアの
ルール等の整備について

参加者:12名(各教室の責任者等)

実施日:全5回(講義・ワーク)、対面開催

6/25(金)、7/2(金)、7/16(金)、10/8(金)、10/29(金)

内 容:「活動理念」のまとめ、「活動のしおり」及び「募集チラシ」
のたたき台の作成等



取組実績

【活動理念】

私たち日本語教室は、地域の日本語習得を希望する外国にゆかりのある方が、生活に必要な日本語を学ぶことを通じ、ボランティアと学習者相互の文化や習慣の違いを学習し、共に助け合って生きることのできる社会の実現を目指しています。

① 市町村や関係機関等と連携した地域日本語教育体制の整備

専門家による日本語講座開催の促進 2

ボランティアによる日本語教室等の運営改善等に係る支援(市町村支援)【続き】

コロナの
影響

- ・ 対面開催のため緊急事態宣言を踏まえて、3回目以降、実施日を延期したことで、短期間で集中的に実施することができなかった。

課題

- ・ 日本語教室やボランティアが抱える運営面での課題はそれぞれ異なるため、オーダーメイド型で対応する必要がある、モデル事業として他のケースに応用できない場合が多い。

受講者
からの
意見等

【受講者の満足度】

66.7% (回答数9名)

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 各教室が抱えている共通課題や相違点を知ることができて、視野が広がった。
- ・ 日本語教室開催の目的、実施・運営、参加者募集の道筋を確認することができた。
- ・ 参加者が少なかったため、全会員への理解や普及には大きな困難を感じる。

今後の
検討事項

- ・ モデル事業として他のケースにも応用できるよう複数教室における課題解決につながる支援

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語ボランティアの養成・研修(市町村支援)

概要

市町村が自立して講座の継続実施ができるよう、日本語ボランティア養成及び実践者研修等に対し、プログラム提供・講師派遣等の支援を実施。

【平塚市】

参加者:14名(既に活動している方)

実施日:全4回 10/3(日)、10/17(日)、
11/7(日)、12/5(日)

【藤沢市】

参加者:35名(新たに活動を希望する方)

実施日:全5回 9/12(日)、9/26(日)、10/10(日)、
10/24(日)、11/14(日)

【小田原市】

参加者:14名(新たに活動を希望する方)

実施日:全2回 8/31(火)、9/7(火)

【伊勢原市】

参加者:19名(新たに活動を希望する方)

実施日:全4回 9/4(土)、9/11(土)、9/18(土)、9/25(土)

【綾瀬市】

参加者:11名(既に活動している方)

実施日:全3回 10/26(火)、11/2(火)、11/30(火)



取組実績

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語ボランティアの養成・研修(市町村支援)【続き】

コロナの影響

- ・ 緊急事態宣言を踏まえて、平塚市、伊勢原市、小田原市の講座の一部をオンラインに切り替えて実施した。

課題

- ・ オンラインの場合、受講者同士が直接話す機会が少なく、ネットワークづくりにつながりにくい。

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

平塚市:93% 藤沢市:88% 小田原市:100% 伊勢原市95%
綾瀬市:100%

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 他の教室との情報交換の場がとても大事。全体のレベルアップにつながると思う。
- ・ 神奈川県内、市内における在日外国人の状況や課題点、そして地域の日本語ボランティアの役割等を知ることができとても勉強になった。
- ・ オンラインのため、受講者同士のコミュニケーションが取りづらいつと感じた。

今後の検討事項

- ・ オンラインで開催する場合のネットワークづくりの方法

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語学習支援に関する研修の実施

概要

地域における日本語教室の実践者(リーダー的人材)を対象に外国籍県民等の学習ニーズの把握や地域に関わる多様な主体との連携を考慮した日本語教室を実践できるよう研修を実施し、教室間・地域間のネットワークづくりの支援を行う。

【テーマ】

- ① 日本語教室を魅力ある相互理解の場とするには？
- ② 日本語教室が地域の多文化共生の拠点となるためには？

【県央地域】 オンライン開催

参加者: ①19名、②26名

実施日: ①9/3(金)、②9/14(火)

【湘南・県西地域】 対面開催

参加者: ①13名、②12名

実施日: ①11/21(日)、②12/4(土)

場 所: ①伊勢原シティプラザ、②伊勢原市中央公民館

※「資料1-2(資料編)」のチラシ参照



取組実績

コロナの影響

- ・ 緊急事態宣言を踏まえて、県央地域の研修をオンラインに切り替えて実施した。

② 地域の日本語教育活動を支える人材育成とネットワークづくり

日本語学習支援に関する研修の実施【続き】

課題

- ・ オンラインの場合、受講者同士が直接話す機会が少なく、ネットワークづくりにつながりにくい。
- ・ 本研修を受講した人材について、今後どのように地域における日本語教育の取組推進につなげていくか。

受講者からの意見等

【受講者の満足度】

県央地域：①100%、②100% 湘南・県西地域：①100%、②100%

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

- ・ 先生のおっしゃった、少しずつ変えていく、緩やかなネットワークを作るというお話がとても勉強になりました。
- ・ ANADOの紹介とグループワークは、とても新鮮で面白かったです。また、グループワークも、比較的時間もあり、意見交換ができ良かったです。
- ・ オンライン上では、参加者の横のつながりが作りにくかったので対面での研修(湘南・県西地域)で貴重な機会となった。
- ・ もう少し多くの方と情報共有ができればよかった。

今後の検討事項

- ・ 本研修の受講者が地域において継続したネットワークを活かせるような手法

③地域日本語教育に関する情報提供の充実と 外国籍県民等の日本語学習へのアクセス促進

日本語学習支援に係る相談対応・情報提供

概要

- ・ インターネット、電話等により、相談対応及び情報提供を実施。
- ・ 必要に応じて、訪問(アウトリーチ)による相談対応、情報提供を行う。
- ・ ポータルサイト「かながわでにほんご」の運営。
(日本語学習に関する情報提供、日本語教室マップの提供等)

取組実績

オンライン教室開催支援

- ・ コロナ禍で活動が停滞している日本語教室等へのオンライン教室の開催支援(ZOOMの使い方を教える等)

相談対応・情報提供

- ・ 別添「資料1-2(資料編)」の「日本語学習支援に係る相談対応実績」及び「「かながわでにほんご」月別アクセスデータ」参照



④ 多文化理解の推進

地域日本語教育に関するフォーラムの実施

概要

日本語教育に関する基本的な理解や関心を深めることを目的としたフォーラムを実施する。

取組実績

【第1回】 オンライン開催

テーマ:かながわ地域日本語教育フォーラム
～地域日本語教育に多様な担い手が関わるためには～

実施日:9/12(日)14:00～15:40

参加者:226名

【第2回】 オンライン開催

テーマ:かながわ地域日本語教育フォーラム
～日本語学習の支援を通して外国人が働きやすい職場を考える～

実施日:1/23(日)14:00～16:00

参加者:115名

※「資料1-2(資料編)」のチラシ参照



コロナの影響

2回のうち1回は対面での開催を予定していたが、感染拡大防止のため、2回ともオンラインで開催。

④ 多文化理解の推進

地域日本語教育に関するフォーラムの実施【続き】

課題

- 参加者からZoomのチャット機能で多くのご意見等をいただいたが、フォーラムの時間内では、一部の紹介にとどまった。

参加者からの意見等

【参加者の満足度】

第1回:97.5%(回答数161名) 第2回:100%(回答数64名)

※「よかった」「まあまあよかった」が全体に占める割合

【主な意見】

<第1回>

- 地域日本語教室が、ボランティア支援者、外国人学習者双方にとっての「承認の場」であり、大切な居場所であることを再確認することができました。
- 学習者同様、ボランティア側にも「継続参加」を期待するためには、やはり「楽しい」という要素が必要だと感じました。

<第2回>

- 企業での日本語支援に、現在取り組んでいる団体の考え、思いを知ることができました。
- 同じ方向を向いている人たちが少しずつ輪を広げて、それぞれの情報や強みを生かし、垣根なく協力していくことが、今後の外国人就労者が働きやすい職場、生活しやすい環境を作っていけるのだと感じました。

今後の検討事項

- 多文化共生の地域社会づくりの一環として、地域日本語教育への理解を深めるためのテーマ設定。